資料②

スクールソーシャルワーカーへの期待

柏市教育委員会児童生徒課
指導主事　杉本　祥子

柏市の教育課題

①全ての学校においていじめが認知されている
→より早期からの関わり・対応・指導が重要
②不登校が増加している
→不登校の捉え方・支援の在り方の転換期
③ベテラン教員の大量退職，若手教員の増加
→「チーム」での指導体制が必須

ＳＳＷrや地域と学校に関する国の動き

2008．４　文科省でＳＳＷｒ活用事業始まる
2013．６　いじめ防止対策推進法に福祉の専門家が明記
2014．８　貧困対策　学校プラットフォーム
2015．８　「チーム学校」 中間報告
2015.12　文科省中教審答申　H32には常勤的配置
　　内閣府すくすくプロジェクト
2017．２　文科省「児童生徒の教育相談の充実について」
　　ＳＳＷｒガイドライン
2017．４　学校教育法施行規則の一部を改正する省令
　　ＳＳＷｒを児童の福祉に関する支援に従事する
　　職員として規定

★質の向上が求められ始めた

ＳＳＷの目的

- 学校や教育機関の領域において、子どもの「生活の質」と権利擁護の向上を目指す営み

（子どもの権利条約、児童福祉法）

- 「学校や教育機関、教師だけでは今日的な教育課題に対応できない」といった限界論に着目するものではない

スクールソーシャルワーカー活用事業

いじめ、不登校、暴力行為、児童虐待など、児童生徒の問題行動等については、極めて憂慮すべき状況にあり、教育上の大きな課題である。こうした児童生徒の問題行動等の状況や背景には、児童生徒の心の問題とともに、家庭、友人関係、地域、学校等の児童生徒が置かれている環境の問題が複雑に絡み合っているものと考えられる。したがって、児童生徒が置かれている様々な環境に着目して働き掛けることができる人材や、学校内あるいは学校の枠を越えて、関係機関等との連携をより一層強化し、問題を抱える児童生徒の課題解決を図るためのコーディネーター的な存在が、教育現場において求められているところである。

このため、教育分野に関する知識に加えて、社会福祉等の専門的な知識や技術を有するスクールソーシャルワーカーを活用し、問題を抱えた児童生徒に対し、当該児童生徒が置かれた環境へ働き掛けたり、関係機関等とのネットワークを活用したりするなど、多様な支援方法を用いて、課題解決への対応を図っていくこととする。

（文部科学省）

ＳＳＷとは

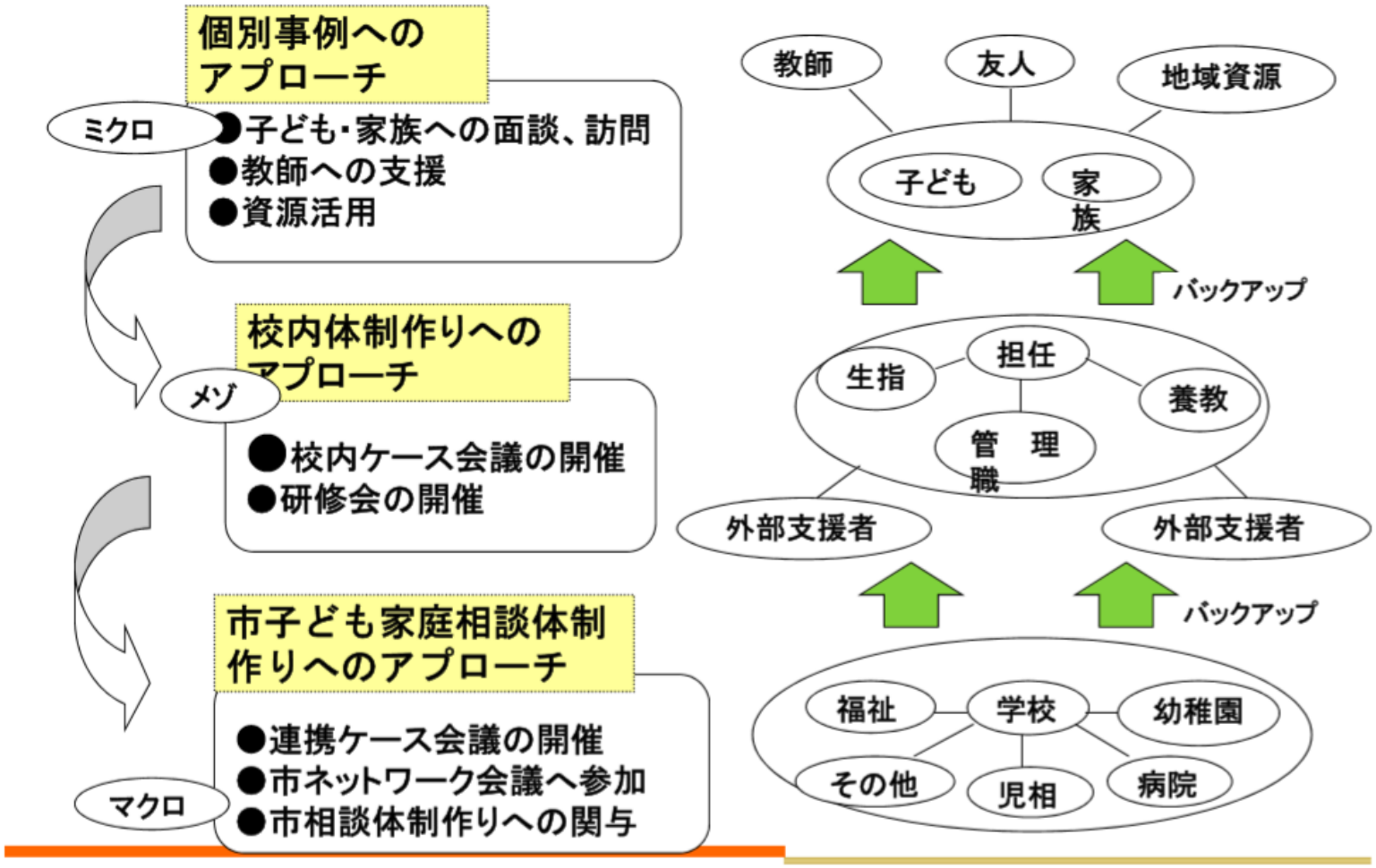
学校をベースにソーシャルワークを展開

- 主体は目の前の子ども自身

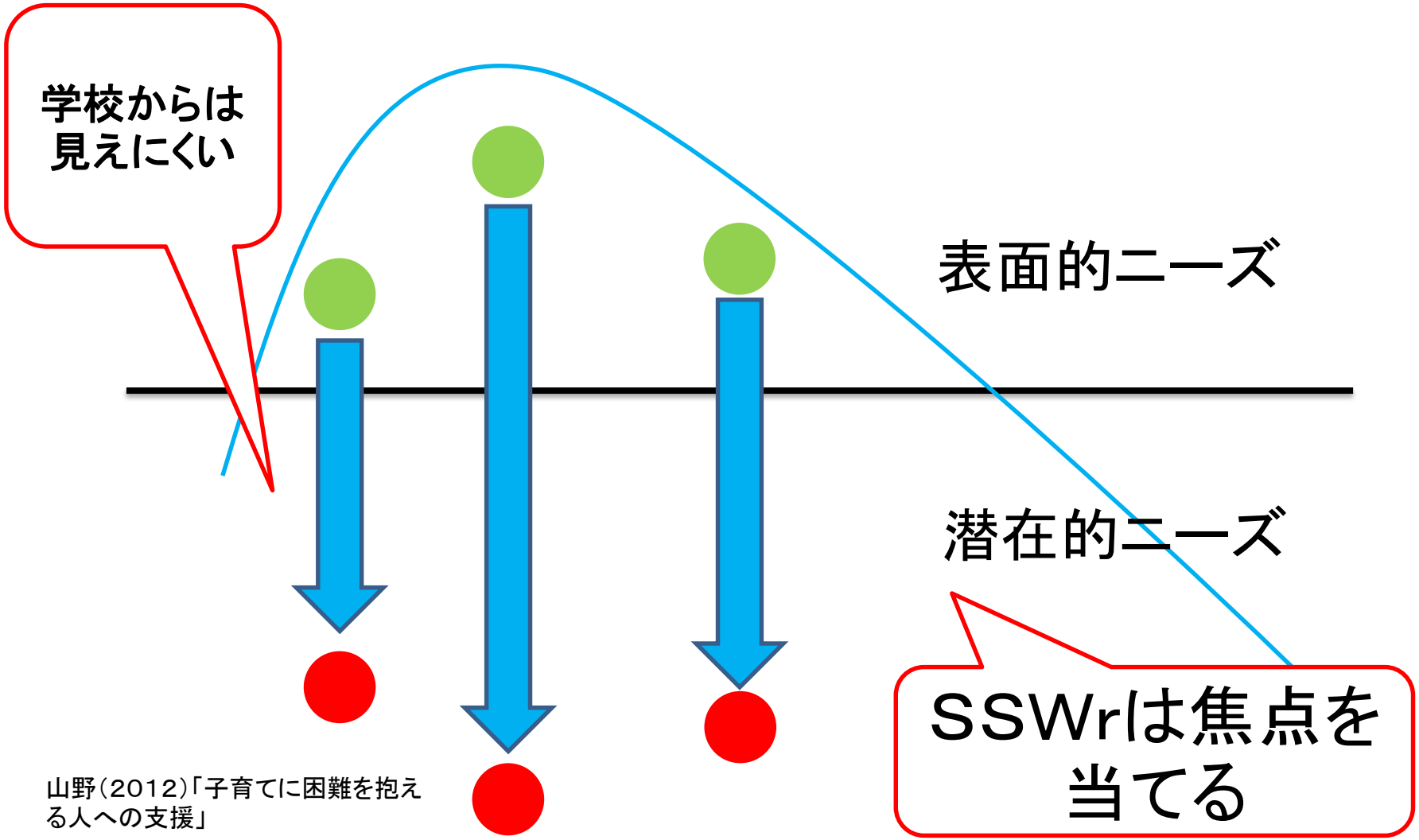
教員の仕事を理解の上、様々な代弁・調整を行う

- 教師ができることを取らない
- 教員の見立て、学校の見立てが重要

SSW：ミクロ・メゾ・マクロ実践（山野2006）



なぜSSWが必要なのか



山野（2012）「子育てに困難を抱える人への支援」

問題に見える家庭こそ支援が必要！

- 家族の理解をすること
  →チームの必要性
- 対応していくためにＳＷの視点が有効
  →アセスメント、プランニング、モニタリング
- 目標設定はスモールステップで
- アセスメントからの目標設定であり、子どもの実態からの目標設定ではない
  →校内ケース会議を行いシステム化する

学校におけるＳＷの支援過程

アウトリーチ

（児童生徒が抱える状況の早期発見）

アセスメント

（児童生徒が抱える状況の情報収集）

ケース会議の開催

（教職員によるケース会議or学校・関係機関によるケース会議）

支援計画の検討

（児童生徒が抱える状況の改善に向けて支援方法の検討）

支援計画の実行

（学校・関係機関が協働して役割分担で支援を実行）

支援計画の評価

（支援計画の成果と見直し）

ＳＳＷrが学校ですること

この手法をシステム化する

★先生方と一緒に作り、実行する→学校内が機能するように

★表面的ニーズと潜在的ニーズの焦点化→専門家の視点

ＳＳＷの要

アセスメント

- 情報収集を行い、根拠に基づいてどのような状況が起きているのか見立てていく

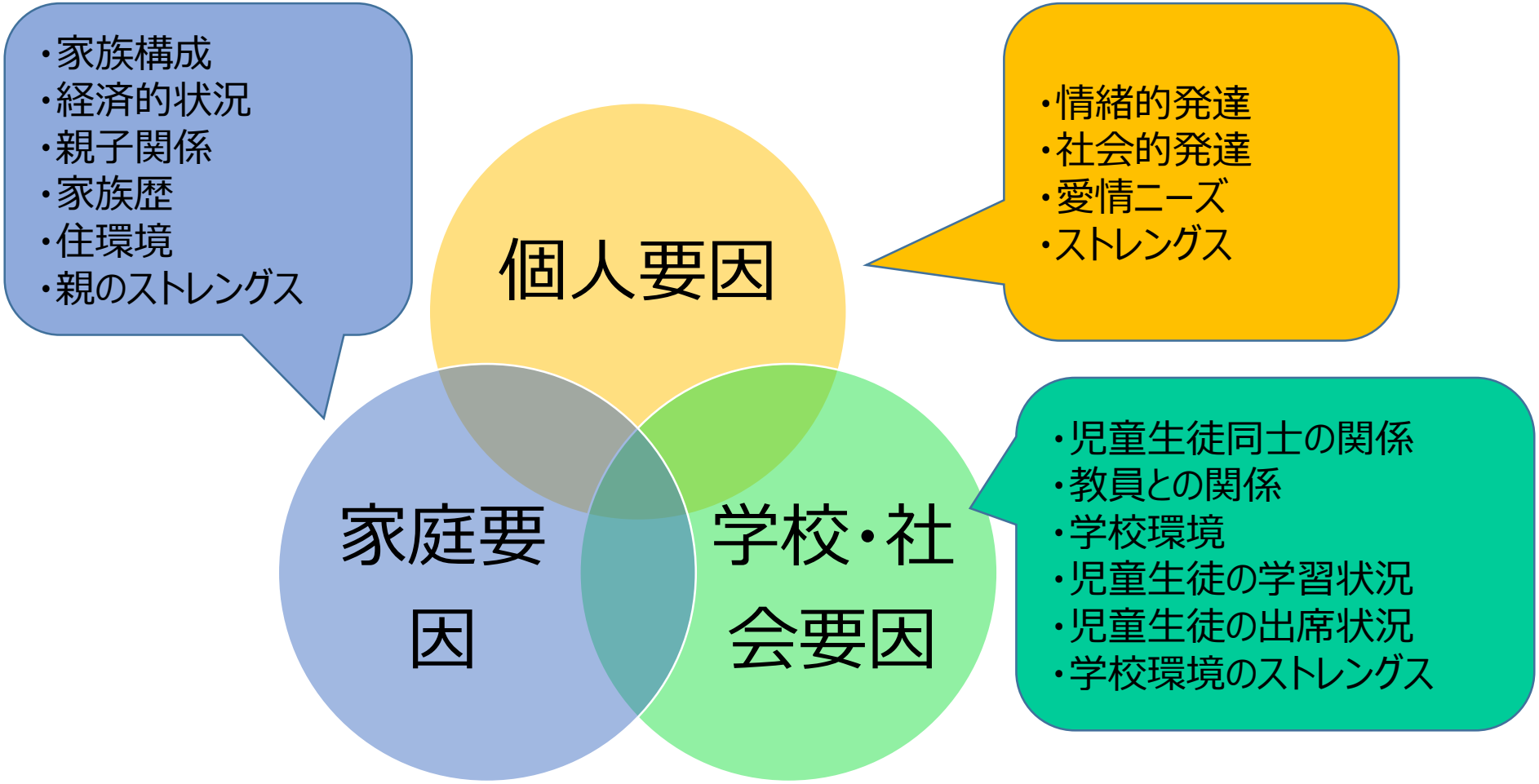
プランニング

- アセスメントに基づいて、長期的・短期的な現実的に実行可能な具体的なプランを立てていく

モニタリング

- プランニングの効果を確認
- ふり返りを行う

アセスメントにおける情報収集項目の例

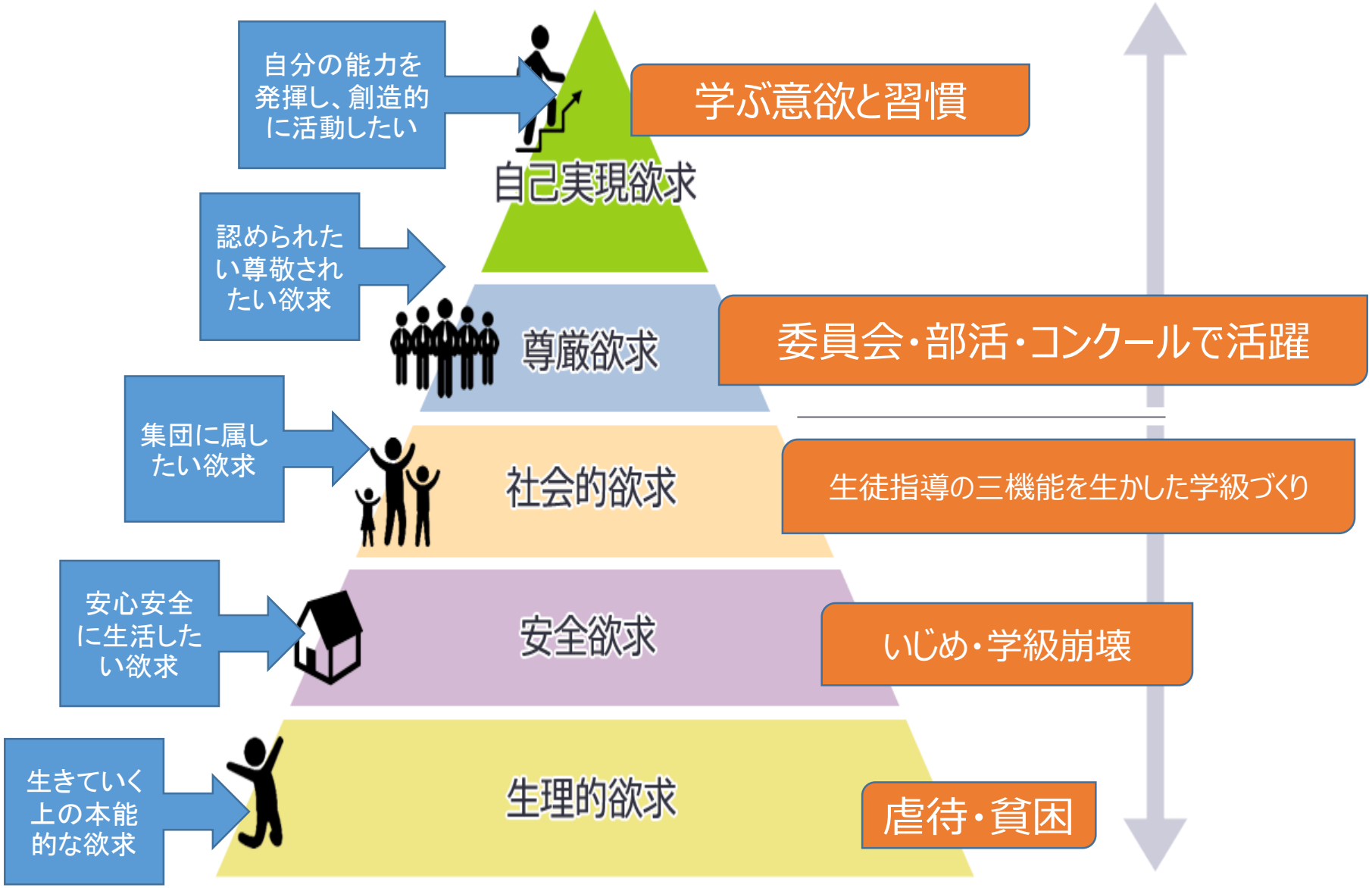


磯邉　2017

児童生徒理解において大切な視点

- 事実と伝聞
- 情報収集（縦と横）
- 非言語（ノンバーバルメッセージ）
- 発達の問題（思春期の迎え方，生まれ月）
- 診断（いつ，どこで，誰が）
- 福祉との連携の必要性（子どもの貧困，虐待という視点）
- ライフイベント

マズローの欲求５段階説から見る学ぶ意欲



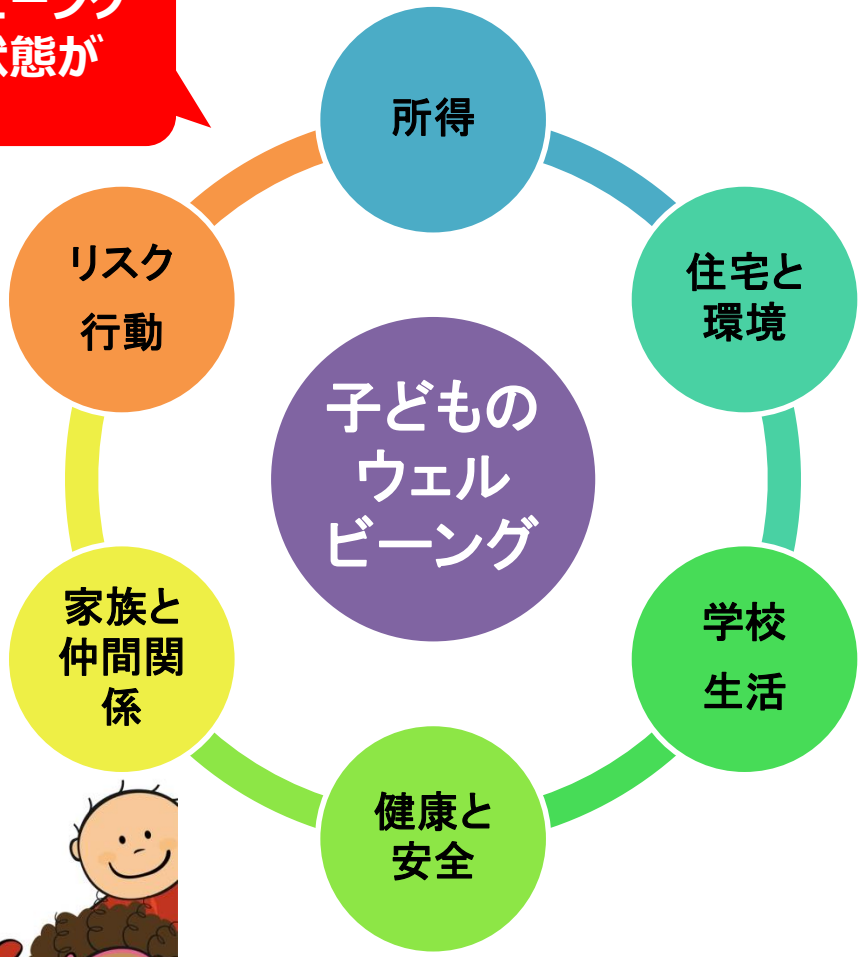
平成２９年度の対応ケース　速報値

不登校	６３
いじめ	５
暴力・非行	１４
児童虐待	２
虐待以外の家庭環境	７６
心身の健康	２７
発達障害	９
その他	１５

全１２１ケース中，複数回答あり

目指すべきもの

**子どもの幸せ＝ウェルビーング
が満たされていない状態が
子どもの貧困**



子どもウェルビーイング指標：概念図
末冨　芳（2018）「子供の貧困対策マッチングフォーラム」資料より

学校現場に福祉の視点を！

平面的平等主義

- どの子も平等に
- 困った子どもに特別なケアをしない
- 切り捨て

⇒　ＳＳＷｒ＝福祉の専門家が学校現場に入る
ことで、学校の意識を変えたい！

ＳＳＷｒへ期待すること

- いじめ，不登校への早期対応
- 困っている子どもと家庭を孤立させない，関わり続ける
- 風通しのよい学校づくりをする